



農協だより

Vol.59

URL: <http://www.ja-aki.jp>

平成 23 年 7 月

営農指導センター移転のお知らせ

営農指導と育苗事業の強化を図り、購買事業との連携強化を目的に営農指導センター事務所を6月20日に熊野購買センター隣りに移転いたしましたので、お知らせ申し上げます。営業日におきましては、営農指導センターは、熊野購買センターと同じく月曜日～土曜日に営業いたします。育苗センターは、今まで通り、月曜日～金曜日に営業いたします。住所は下記の通りです。今後とも一層のご支援ご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

記

◆JA安芸 営農指導センター

所属職員 センター長 福田五郎
営農指導員 中村典弘

住 所: 〒731-4213
広島県安芸郡熊野町萩原
八丁目2-6

電話番号: (082) 855-6176

F A X: (082) 855-6177

それぞれ営農指導員には、携帯電話を所持させる予定ですが東日本震災の影響で遅れ、今回の引越しに間に合いませんでした。設置できましたらお知らせいたします。

◆JA安芸 育苗センター

所属職員 営農指導員 松村禎三
営農指導員 崎岡正和

住 所: 〒731-4231
広島県広島市安芸区阿戸町
2524-1

電話番号: (082) 856-0071

F A X: (082) 856-0069

エコファーマー推進 (維持性の高い農業生産方式)

JA安芸では、食の安全・安心への取組みとして、水稻の栽培履歴の100%記帳を行い、食の安全について生産者と一緒になって取り組んでおります。こだわり栽培米においては種モミの温湯消毒を導入したりしてなるべく農薬の使用量を少なくして栽培し、肥料においても化学肥料の使用量を下げた栽培ごよみを作成するよう指導しております。エコファーマー米は、広島市、広島県の認証を得て農薬回数を2割減少、化学肥料使用量を2割減少して作るものでJA安芸のこだわり米ヒノヒカリはこの認証を受けられる栽培方法であることを4ヶ所の水田で実証展示園を設置して確認を行います。(上瀬野町、阿戸町、熊野町新宮、熊野町平谷) 実施している圃場は、看板を立てております。



JA安芸切花品評会出品者募集!

出品受付: 7月30日(土) 10:00~12:00

表彰式: 7月30日(土) 14:00~

目的 花き栽培農家の出荷技術および切花品質を競うことにより生産意欲の高揚と切花品質の向上を図ることを目的とします。また消費者に地場産切花の理解を図ることも目的としています。

名称 平成23年度JA安芸切花品評会

開催場所 JA安芸 阿戸支店

出品規格

- (1) 出品対象者は、JA安芸管内の花き生産農家
(2) 出品規格は、原則としては10本を1束ですが、新テッポウユリ・ヒマワリ
グロリオサ・宿根カスミ草については、5本を1束とします

表彰

- 組合長賞 特等1点、一等2点、二等3点、三等4点
特別賞 安芸区長賞・(財)広島市農林水産振興センター理事長賞



水稻水分計点検

水稻栽培において、出荷、保存の際のモミの水分は大変重要なものです。JA安芸では毎年水分計が正しく機能しているか点検の受け付けをしております。水分計には誤差、寿命があり、この機会に点検されることをお勧めいたします。ケット商品については点検、調整ができますが、他社製品は、調整ができません。7月8日までに最寄りの支店、購買部へご持参ください。

講習会を開きました!

- ▼ アグリパーク浜角の新規開園(26区画)
6/1より入園していただきました。
- ▼ 5/26 熊野町黒大豆生産組合 農談会
- ▼ 6/1 中野生産者会 講習会
- ▼ 6/2 阿戸農事研究会講習会
- ▼ 6/3 スミレ会 講習会
- ▼ 6/6 瀬野川女性部講習会
- ▼ 6/7 JA安芸育苗センター農業講座
- ▼ 6/13~17 稲作講習会各地区



アグリパーク浜角

有害鳥獣対策勉強会の開催

6月1日(水)JA安芸上瀬野支店で有害鳥獣対策勉強会を開催いたしました。管内では、イノシシ、シカ、サル、イタチ、タヌキ、ヌートリア、カラス等に農作物を荒らされ、深刻な問題になり遊休農地の増加の一因にもなっています。最近では特にヌートリアが増加しているようです。今回は、広島市より「暮らしを守る獣害対策シリーズ」のDVDをお借りして勉強をいたしました。畑の守り方、追い払い方、地域での協力、習性等大変勉強になったと喜んでいただきました。また、広島市の平成23年度有害獣防除用施設設置事業の説明を行いました。

7月営農メモ

水稲

植付け後から低温で推移し、莖数が少ない圃場が多いようです、適切な水管理を徹底してください。

◎幼穂形成期までの水管理(根の健全化、倒伏防止と莖数の調節をめざします)

「早生品種」コシヒカリ、ココノエモチなどは出穂30日前頃(6月下旬～7月初旬)から株元の茎の中に幼穂ができて始めます。中干しを終えたら間断かんがいで根に水と空気を供給します。ガスの発生しやすい水田では5日以上滞水はさけるようにして下さい。

「中生品種」ヒノヒカリ、あきろまんなどは最高分げつ期が7月上旬です。圃場や田植え時期によって分げつにバラつきがあり過剰稲から小株稲まであります。過剰稲では早めに強く干し、分げつ不足の稲では軽めの中干しとします。時期は幼穂形成期前(7月中旬ごろ)までです。

◎穂肥

さじ加減や時期で収量(1穂のモミ数、モミの大きさ)品質、食味に影響します。穂肥までの葉色の落ちすぎた圃場や、一発肥料においてもつなぎ肥をしたほうが良い場合があります。(平年の品種別出穂期は稲作ごよみを参考にして下さい)

品種名	穂肥1の時期	葉色板による判断	施肥量(多木V化成の場合)
コシヒカリ	出穂18日前	3.0～3.5	10～15kg
ヒノヒカリ	出穂24日前	3.5～4.0	
あきろまん	出穂24日前	4.0～4.5	
ココノエモチ	出穂24日前	4.0～4.5	15kg

◎病害虫防除 早期発見・早期防除に努めましょう!

予防散布の粒剤体系ではイモチエースタークル粒剤(いもち病・紋枯病、カメムシ類、ウンカ類など)3kgを出穂5～10日前に散布。但し、コブノメイガやイネアオムシなどが発生した場合にはパダンバツサ粒剤などを散布して下さい。粉剤体系ではパダントレパリダビーム粉剤

DL(穂いもち・紋枯病・ウンカ類・カメムシ類・コブノメイガなど)5～10日前に散布して下さい。カメムシ類は山間棚田やイネ科雑草繁茂地の周辺では被害が出やすいので注意して下さい。特に瀬野川筋では最近イネクロカメムシによる被害が拡大しておりますので散見したらアルバリン粒剤などで早めに防除して下さい。紋枯病においても高温多湿で発生しやすく近年増加傾向の病気です。常習地では早めに防除して下さい。リンバー粒剤・モンガリット粒剤(稲こうじ病も同時防除)またはバリダシン粉剤をDL適期に散布して下さい。

果樹

ぶどう

袋かけ 摘粒が済みしだい袋かけをします。袋かけは病害軽減、汚れ防止の効果があります。房の整理(樹にあった房数にする)

ブドウの果粒が軟化する前までに最終的に房を摘みます。遅れても糖度はある程度ありますが、着色は悪くなります。房数は、葉が傷んでいたり葉面積が少ない場合は糖度不足や極端な着色不良を起こすので、樹勢、葉の傷みの程度、葉面積等考えて①1結果枝(今年伸びた枝で房の付いた枝)に1房残す、または②3結果枝に2房残すぐらいを基準にして遊び枝(房を付けない枝)を作って調整します。

かん水 梅雨時期は排水路の整備を行い、過失には充分気を付けてください。梅雨の中休みで晴天が続く場合は、かん水して下さい。また、果粒が軟化時期に入ったものは土壤水分不足になると肥大不良を引き起こします。急激な土壤水分変化は裂果の原因になりますので晴天が続く時はかん水を行い、土壤水分を適度に保ちます。

野菜

例年では中旬頃には梅雨明けとなり降雨も少なくなります。梅雨明け後には敷きワラなどを行い、地温上昇の抑制や乾燥防止に努めましょう。

また、きゅうり、なす、えだまめなどは水が切れた場合、曲がり果の増加や、実の太りが悪くなりますので晴天が続く様であれば3～4日おきに灌水を行いましょう。

播種 7月中旬頃よりきゃべつやブロッコリーなどのあぶらな科作物やにんじんが、下旬頃には抑制のきゅうりやスイートコーンなどの播種が行えるようになります。(品種により適期が異なりますので絵袋を参考にしてください。)

なすの更新剪定 7月下旬には高温や強日照のため果実の着色不良や日焼け果の増加、ダニによる葉の黄化や落葉が多くなり収量が減少してきます。この様な状態となった場合には1枝に2～3芽残す様に強剪定を行いましょう。(更新剪定)この時切り返しが弱い場合芽の吹きが悪くなりますので注意してください。

剪定後に追肥とダニの防除を行う事により約1ヵ月後より秋なすが収穫できる様になります。

花き

ハボタン播種

ハボタンの種まきは冬までに大きくしなければならいので、時期は夏7月中旬から8月上旬かけて行います。種まきの方法はトレー播きかポット播きで行えばよいでしょう。品種は切り花用で『プラチナケール・ルシール』や『晴姿』などが良いでしょう。気温の高い時期なので立枯病が出やすいので清潔な培土を使い水やりに注意します。ハボタンは発芽後に徒長しやすいので、双葉がしっかり出揃った頃にあれば100倍に薄めた矮化剤のビーナインを1回散布しておく、徒長をある程度抑えることができます。